

# 民衆の記憶と東アジアの民主主義

## ——サバルタンの声を聴くこと

**日時：2014年2月20日（木） 14時から**

**場所：東京外国語大学・海外事情研究所 (427)**

- ◆ 基調講演 ◆ 金元（韓国学中央研究院）
- ◆ パネリスト ◆ 友常勉（東京外国語大学、部落解放運動の位置から）  
戸邊秀明（東京経済大学、沖縄研究の位置から）  
李英哲（朝鮮大学校、在日朝鮮人の位置から）  
金閔愛（東京外国語大学、文化運動史の位置から）
- ◆ 司会 ◆ 中野敏男（東京外国語大学）

### 【金元さんのご紹介】

現在、韓国学中央研究院・韓国学大学院社会科学部准教授。

専攻は、労働史、口述史、1960-1970年代の韓国現代史。

著書に、『朴正熙時代の幽霊』、『女工1970、彼女らの反歴史』、『87年6月抗争』、『忘れられたものについての記憶』、『消え去った政治の場所』など。民族や階級など近代的なアイデンティティを基準として民衆という主体を設定し、これに合わない存在を無視・排除してしまう従来の知識体系そのものを問い返し、そこからこぼれ落ちるサバルタンに焦点を当てて、韓国現代社会が抱える諸問題（戦争、国家暴力、民主主義など）の解剖を続けている。

共催 2013年（平成25年）度大学院総合国際学研究院競争的経費

東京外国語大学・国際日本研究センター

挑戦的萌芽研究「東アジアにおける「文学—文化」の「間」ルートと運動の力学をめぐる研究」

（高栄蘭、課題番号：24652051）

問い合わせ：中野敏男研究室 [tnakano@tufs.ac.jp](mailto:tnakano@tufs.ac.jp) （事前申し込み不要、通訳有り）